フィリア・レター

～真の友人からの手紙～

発行所：中部ろうさい病院
〒455-8530
名古屋市港区港明1-10-6
TEL 052-652-5511
FAX 052-653-3533
http://www.chubuh.rofuku.go.jp/

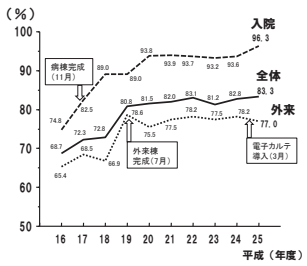
副院長就任二年目挨拶
～より満足できる病院を目指して～

副院長　河村　孝彦

全国のろうさい病院では毎年、患者さんの満足度調査を実施しています。アンケート調査が皆さんの意見を十分に反映しているかは別にして、参考になることは間違いありません。そこで平成16年からの調査結果をグラフにしてみました（図）。

平成17～18年、平成19年に急激に満足度が上昇しているのはそれぞれ病棟や外来棟が完成したことによるものと思われますが、問題はその後の推移です。新しいものは必ず古くなり、色々な問題点も出てきます。病棟に入院される患者さんの約９割を超える方々が満足していただけ、年々右肩上がりな結果には我々も勇気づけられます。一方で、外来に関しては増改築後も満足度は８割にも達していません。特に、外来棟完成後に下降したのは期待の裏返しかもしれません。その大きな原因として、待ち時間の問題や中央採血室の混雑などが考えられます。今年の４月からは、少しでも患者さんが休める場所を提供しようと、正面入口にホスピタルラウンジをオープンしました。その他にも、受付機設置場所の変更、化学療法室、中央処置室の変更など色々と改善を行っていますが、先に挙げた大きな課題は今すぐには解決できず、しばらくは皆さんにご不便をおかけするかと思います。外来担当の副院長として、皆さん方の声を聞き努力していきたいと思っていますので、忌憚のないご意見をお待ちしています。病気をもつことはつらく、大変です。しかし、その中でも病気と向き合う勇気や希望を与えてくれる安全、安心な病院にしていきたいと職員一同思っていますので今後ともよろしくお願いします。

患者さん満足度調査の年次推移



今月号のお知らせ

1 副院長就任二年目挨拶
～より満足できる病院を目指して～
…… 副院長　河村　孝彦
2 脳卒中になったら!? Time is brain!
……第三脳神経外科部長　高須　俊太郎
3 障害者の自立生活に向けた福祉制度、福祉用具活用術
……社会福祉士　鈴木　理恵子
4 看護週間のイベントを行いました
5 第5回白鳥・市民健康セミナーを終えて
……歯科口腔外科副部長長　宇佐見　一公
6 中央検査部が「日臨技精度保障認証施設に認定されました
6 研修センター通信
6 編集後記
6 当院の理念・当院の基本方針

医師

脳卒中になったら!? Time is brain!

第三脳神経外科部長　高 須　俊太郎

Time is brain.（タイム・イズ・ブレイン）聞きなれない言葉だと思いますが、Time is money（時は金なり）にかけた言葉で、訳すとすれば「時は脳を助ける」でしょうか。脳卒中になったときは、できるだけ早く治療するのが重要であることをあらわした言葉です。

脳卒中はとても怖い病気です。日本人の死因の第4位で、生存できてもしばしば重い後遺症が残り、寝たきりの原因の第1位になっています。脳卒中には、脳の血管が詰まってしまう“脳梗塞”、脳の細い血管が切れてしまう“脳出血”、脳の血管にできたコブ（脳動脈瘤）が破裂する“くも膜下出血”があります。

脳梗塞になると、以下の様な症状が突然、起こります。

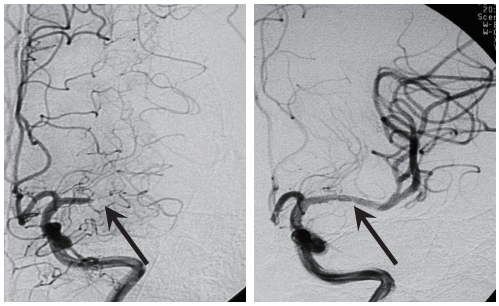
①片方の手足や顔面の半分の麻痺
②ろれつが回らない、言葉が理解できない
③視野の半分が欠ける
④身体がふらつく、力は入るが立てない

以前は治療法がないとされていた脳梗塞ですが、現在はt-PAという血栓溶解薬を使うことにより、つまった血管を開通させ、症状を改善させることができます。しかし、この治療法が有効なのはごく一部にすぎません。この薬は脳梗塞が発症してから4時間半以内でないと使えないのです。しかも、治療開始が早いほど症状も改善しやすくなります。時間が経つと脳梗塞が完成して症状は良くなりませんし、薬の副作用で逆に脳出血を起こして症状を悪化させることがあります。

くも膜下出血は、突然の激しい頭痛で起こります。これまで経験したことがない痛みと表現されることが多いです。一旦出血が止まっても、高率に再出血を起こし生命に危険が及ぶことが多いので、やはりできるだけ早く治療することが大事です。治療がうまくいけば、後遺症なく退院することができます。

当院では6西病棟を脳卒中センターとして、神経内科と脳神経外科が協力して脳卒中の治療にあたっています。脳梗塞の患者さんは神経内科で治療を開始し、可能であればt-PAを投与します。t-PAが効かない場合や、t-PAが使用できない場合は必要に応じて脳神経外科と協力してカテーテルを用いた血栓溶解療法を行います。くも膜下出血、脳出血の患者さんは脳神経外科で治療します。くも膜下出血に対しては状況に応じて、開頭クリッピング術（頭蓋骨を切って直接、脳動脈瘤にクリップをかけます）または血管内コイル塞栓術（カテーテルで動脈瘤の中にコイルを詰めます）を選択して行うことができます。当院では、iPadを用いた画像転送システムを採用していますので、24時間体制で専門医の迅速な診断、治療を行うことができます。

もし、脳卒中を疑う症状が出た場合は、迷わずに救急車を呼んで、病院に来てください。「しばらくすれば治るかも…」と様子をみることは絶対にやめてください。
Time is Brain！



血栓溶解療法によってつまった血管を再開通させることができます

★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さんに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発刊しています。

私の車いす生活　～中央リハビリテーション部・社会生活講座より～

障害者の自立生活に向けた福祉制度、福祉用具活用術

社会福祉士　鈴木　理恵子

これまでの経緯

中学２年時に交通事故により脊髄損傷。同事故で両親他界。病院併設の養護学校へ転校。
高等部３年時、ダスキン障害者リーダー米国派遣事業にて１年渡米し、公立高校での生活実体験。
大学２年時にはYMCAの留学交換プログラムで１年ベルギーに滞在。欧州全土を２ヶ月かけて車いすで１人旅する。
帰国後、大学生活中、社会福祉法人　AJU自立の家のボランティアやアルバイトとして関わる。
大学（社会福祉学専攻）卒業後、市内総合病院　医療ソーシャルワーカー　勤務。
仕事の傍ら、小、中学校生、教員へ総合学習の生の福祉教材として講師活動。
結婚、妊娠、出産を経て、現在、AJU自立の家　ディサービス担当　勤務。

講演内容

私は脊髄を損傷し、一種１級の障害者です。障害者総合支援法の区分では３の判定枠で月に家事支援（ホームヘルプ）62.5時間と身体介助8.5時間程もらい、ヘルパーの援助をうけながら家事、育児を行い、仕事との両立を保っています。住宅は、障害者住宅改造補助金による住宅改造を行いました。具体的には、玄関の段差にスロープ、浴室の扉を折り戸の外開き、洗い場にサイズ特注（高さや分割可能にした）のすのこ、ベランダにスロープ等設置しました。

移動、交通では、自動車改造補助金支給による手動装置車へ改造と自費ではありますが、車いすを車のルーフに格納できるリフトをつけています。また、警察署で駐車禁止除外指定をうけたり、簡易電動車いすで子供達とともにでかける際は、リフトカー利用の登録をして、状況で使い分けをしています。

生活で必要な用具は、日常生活用具の給付をうけ、入浴補助用具（バスボードや入浴踏み台など）、特殊マット（体位変換保持用ビーズクッション等）、トイレ手すり、シャワートイレなど揃えています。補装具の給付では、手動車いす、ROHO®クッション、座位保持バックレストなどを受けています。その他、障害の程度や生活の状況で必要物品もかわります。詳細は区役所で障害者福祉のしおりをもらい、熟読される事をおすすめします。給付限度額や耐用年数、使用感もありますので、これから紹介する各種相談窓口、当事者団体を活用して、自分にあった用具や必要な制度を見つけてください。各区の障害者地域生活支援センター、なごや福祉用具プラザ、脊髄損傷者連合会、頚髄損傷者連絡会、車いすテニス、バスケットチームなど。同じ当事者から使い勝手を聞いたり、実際に試させてもらったり、制度についてきいてみたりと、多くの情報収集が自立生活を充実させるための重要な鍵です。

心ゆたかに楽しく障がい者？！生活をおくるために必要なモノは人とのつながりです。同じ障害を持つ仲間作りをして人との輪をひろげ、車いすで遊びにいけるバリアフリーの情報やバリアフリーでなくてもこんな工夫や行動をしてアクティブに過ごせているという情報を仕入れることができます。また、人のつながりで就労、仕事につながっていく事もありえます。仲間以外の情報源として、区役所で配布される障害者のしおりから自分が受けられる特典を探してみましょう。

できないことをなげくのではなく、できないことはどんな物、者（人）を使えば可能に近づくのか、何が自分に残され、できるのかを考えてみましょう。また、障害を逆手にとって、だれにとっても住みやすい街作りのオピニオンリーダーとして行政、社会に働きかける役割があります。具体的なソーシャルアクションから社会の変革や一般の人々の意識改革に携われる事を実感して、生きている喜びを見いだしてみえる方も多くいます。一度は死にかけた命、通常では経験できない事を体験した事を自信に、かつ、なんとかなるの精神で楽しく障害をもったセカンドライフを生きてゆきましょう。

＊＊＊　中央リハビリテーション部・社会生活講座とは　＊＊＊
入院患者さん向けの生活支援応援会。社会復帰して活躍されている脊髄損傷者の方に、地域社会での生活について情報提供してもらうピアサポートの場。患者さん・ご家族の元気力アップと悩み解決に役立つ講座となるよう活動しています。

★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。

看護週間のイベントを行いました

５月12日は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、「看護の日」と制定されています。そして、その日を含む週の日曜日から土曜日までを「看護週間」として全国で様々なイベントが行われています。

当院では『看護でつながる笑顔の輪』をテーマとし、以下の行事を行いました。

月　日	行事名	内　容
5/14(水) 14：00～	救急講習会	一般向け救急講習会
5/16(金) 14：00～	院内コンサート 「歌でつながる笑顔のコンサート」	当院職員（医師・看護師・医療職）による演奏と歌
5/12～5/16	写真展 メッセージカードのプレゼント	看護場面の写真の掲示 メッセージカードの配布

救急講習会では、倒れている人を発見した際の意識の確認や心臓マッサージなどの基本行動や設置が広まっている「AED」の使用方法について説明し、実際に体験していただきました。参加者からは「雨が降っている中での対処方法は？」などの質問もあり、盛況な講演会でした。

「歌でつながる笑顔のコンサート」は、入院患者さんをはじめご家族など約200人もの聴衆が集まりました。参加者の皆さんと共に振付をしながら歌うことで、「笑顔」が広がるのを実感しました。

看護の一場面を展示した写真展では、ご覧いただいた方から「患者さん達の笑顔と看護師さん達の笑顔が印象的で良かった。信頼されている証拠ですね。」「一人の笑顔がみんなの笑顔に変わります。お互い頑張りましょう！！」などの温かいお言葉をいただきました。

入院中の患者さんには、少しでも元気になっていただきたいという思いを込め、メッセージカードを配布しました。

「看護の日」制定の趣旨

21世紀の高齢化社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人一人が分かち合うことが必要です。

こうした心を、老若男女を問わずだれもが育むきっかけとなるよう、旧厚生省により、「看護の日」が1990年に制定されました。

（看護協会ホームページより）

医師

第5回白鳥・市民健康セミナーを終えて

歯科口腔外科副部長　宇佐見　一公

平成26年３月１日、名古屋国際会議場にて第５回白鳥・市民健康セミナーが開催され、287名もの方が来場されました。今回のセミナーは「認知症を正しく知ろう」というテーマでしたが、老若男女さまざまな年代の方がセミナーに参加され、無事に終えることができたことを嬉しく思います。

はじめに、加藤院長代理が人間の脳の重さについてお話されました。サルより４倍近い1.5kgもあるのは、想像力が飛躍的に高いためと説明され、人間の脳の多様性について考えさせられました。

まず、上條第三神経内科部長が、「認知症診療の実際」というテーマで講演されました。その中で、認知症セルフチェックと題し15項目がスライドに紹介されると、自分が当てはまるのではないかと会場がざわつく場面がありました。結果的には、「認知症ではないかと心配すること」自体、認知症ではないと紹介されると会場は安堵とともに笑いも起こっていました。また、認知症は早期診断が大切であること、画像検査だけでなく心理検査も重要であることなど専門的立場から分かり易く講演されました。

次に、滝沢認知症看護認定看護師が、「認知症の正しいケアで自分と大切な人を守る」というテーマで講演されました。その中で、認知症の患者さんにみられる≪もの盗られ妄想≫への対応についてお話がありました。認知症の患者さんに怒ったり、叱ったりなど感情的なやり取りは逆効果となるため、一緒になくしたものを探して見つけてもらうことが大切であることを学びました。

最後は、竹内医療ソーシャルワーカーが、介護保険制度について講演されました。介護保険の認定を受けることで、車いすや医療用ベッドなどが１割負担で使用できることなど、かなり具体的に説明されました。来場者からは「へぇー」と興味を持つような声が聞かれました。保険制度を活用することは、介護側にとって経済的・精神的な負担の軽減に繋がることを強く感じました。

特別講演は、国立長寿医療センター脳機能診療部部長の鷲見幸彦先生が、「認知症の人をみんなで支える－認知症についての新しい知識－」というテーマで講演されました。日本で認知症の患者さんは、予備軍を含め800万人とされ、わずか２年後には４世帯に１人もの認知症の方がいることが分かりました。また、認知症の方は基本的に強い不安と自信を喪失していることが多いため、感情が相手によって変化すること、また介助者が同じ目線で行動をすることが必要だと紹介され、来場者からうなずく声が聞かれました。

認知症は、近い将来、私たちの身の回りに存在することを考えると、今回のセミナーが、認知症に対する興味や新たに発見をするきっかけになったのではないかと思います。市民セミナーをこのような形で終えたことは、運営に携わった広報委員会として大変嬉しく思います。今後も市民の方々に分かり易く、正しい情報を提供できるように頑張っていきたいと思います。

中央検査部が「日臨技精度保障認証施設に認定されました

この度、中部ろうさい病院で実施されている臨床検査が、日本臨床検査標準協議会と日本臨床衛生検査技師会の審査を受け、正確さや精密さに優れ、信頼性があるとして認められました。現在、全国では500余の施設が認定されており、労災病院では中部ろうさい病院の他9施設が認定を取得しています。この認定を励みに、診断の一助となる大切な検査データが今後も優れた精度を保ち続けていけるよう、中央検査部一同日々努力してまいります。

主任検査技師　中井　規隆

》研修センター通信《

４月より、また新しい臨床研修医12名が医師としてのスタートを切りました。スタートして2ヶ月余りではありますが、上務医とともに診療に励む研修医の姿が、各診療部門で見かけられます。

今年は、研修開始後すぐの４月19日(土)、『研修医になったら必ず参加してくださいセミナー』と題した講演会が当院で開催され、院内外の研修医を中心とした160名もの受講者が集まりました。

医療知識・技術面の指導もさることながら、医師としてのスタートに必要な心構えや行動など、本当に基本にあたる部分を、全国的にも著名である４名の先生方が丁寧に説いてくださいました。

『研修医になったら必ず参加してくださいセミナー』

岡田正人先生
（聖路加国際病院アレルギー・膠原病科）
岸本暢将先生
（聖路加国際病院アレルギー・膠原病科）
徳田安春先生
（地域医療機能推進機構(JCHO)本部研修センター長、総合診療教育チームリーダー）
藤田芳郎先生
（中部ろうさい病院 リウマチ・膠原病科）

～～ 編　集　後　記 ～～

４月から病院正面玄関脇に「ホスピタルラウンジ」をオープンしました。

どなたでも午前8時から午後６時まで利用可能となっており（自動販売機は24時間利用可能）、病気の予防や治療に関するパンフレットも備えております。

雨の日のバス、タクシー、送迎の待合時やコーヒーで一息つきたい時など、皆様の憩いの場所としてぜひご利用ください。（T. S）

当院の理念

皆さんとの出会いを大切にし、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます。

当院の基本方針

- 医療の質の向上と安全管理の徹底
- 生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- 人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- 地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- 災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供